



県民の森 植物紹介 (25) — バッコヤナギ —



雪解けの頃3月～4月にふわふわとした黄色の花が咲き、遠くからでも銀白色に輝いてよく目立ちます。

バッコの意味は諸説あって確定はできないそうです。東北地方で牛を意味するベコに由来する説や、花の後に生えてくる白い綿毛をお婆さんの白髪に見立てて「婆っこ柳」という説などがあります。

別名はヤマネコヤナギ。山に生えるネコヤナギという意味から付いたそうです。ネコヤナギは高さ3mほどの低木なので、バッコヤナギのほうが背が高く、見分けがつかます。

ヤナギの材は軽くて柔らかいため、それを生かしたまな板が有名です。ネコヤナギのまな板が最高だと言われますが、実際にはバッコヤナギの材を使ったものだったそうです。しかし現在は太い木がなく入手は難しく、北海道でバッコのまな板と呼んでいるのはオオバヤナギの板だそうです。

